

鎌倉御家人と鏡野

昨年NHKで放映された大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は、鎌倉幕府の將軍とそれを補佐する御家人(家来)たちの主導権を巡る争いや人間模様が巧みに描かれていました。ドラマの舞台は関東地方が主でしたが、この大河ドラマにも登場していた御家人たちの中には、美作国や鏡野町域にも関わりがある人物も存在します。

元暦二年(一一八五)、源頼朝は各国に守護・地頭の設置を要求しました。守護は国ごとに置かれ、軍事・警察の役目をする役職で、地頭は各

国の莊園(貴族や寺社の私有地)や郷・保(古代・中世の所領単位)ごとに置かれ、土地の管理や年貢の取り立てを行う役職です。

美作国では、現在作楽神社(津山市院庄)がある院庄館跡が守護の居館とされています。最初の美作国守護は、源頼朝の死後に鎌倉殿を支えた十三人の有力御家人のうちの一人である梶原景時です。おそらく景時自身は美作国に赴任せず、代官がその任にあたったと思いますが、真庭市の草加部には、梶原景時が住んだといわれる梶原屋敷とよばれる館跡

や、勇山寺や神林寺など景時によって建立・再建されたといわれる寺院も存在します。

しかし、景時は他の御家人たちと対立して失脚し、正治二年(一一二〇)一族共々肅清されてしまいました。その次に美作国守護を務めたのは、同じく十三人の御家人の一人で、梶原氏や比企氏、畠山氏など有力御家人の肅清に尽力した和田義盛でしたが、義盛自身も執権・北条義時と対立し、建暦三年(一一二二)、和田合戦とよばれる反乱を起こし、一族共々肅清されてしまいました。その後の美作国守護は史料上では明確ではありませんが、代々北条家とその一門が務めたとみられています。

また、比企氏・畠山氏の反乱や和田合戦、承久の乱にも北条方として従軍し、摂津や淡路の守護を務めた御家人の長沼宗政が、寛喜二年(一一三〇)に嫡子に自分の領地を譲与した書状が残されています。その書状から、下野、陸奥、美濃、美作、備後、武蔵、淡路の各国の地頭も務めていたことがわかりますが、そのうち美作国は「西大野保内円宗寺」とい

う地名が記されています。この地名は、もう想像がつくかと思いますが、現在の鏡野町域の円宗寺にあたります。このことから、大河ドラマにも登場した鎌倉御家人が鏡野町内にも領地を持っていたということがわかります。

鎌倉時代でも少し時代が下った徳治三年(一一三〇八)には、第九代執権の北条貞時が京都の勧修寺という寺院に対して、愛染王・尊勝という仏様の供養料所として、「美作国西香々美庄」を寄進した書状も残されていますが、西香々美庄も現在の香々美一帯を指す地名です。

このほか、以前にこの連載でも紹介した角田弥平次(治)も、承久の乱に従軍した後鳥羽上皇方の武將を討ち取り、その恩賞として薪郷(薪森原)の地頭職に任命されこの地に移住してきた鎌倉御家人の一人です(平成二十九年一・二月号参照)。

鎌倉時代の町内に関する史料は、ここで紹介した程度のわずかなものしか存在しませんが、これらをまとめてみるだけでも、大河ドラマの世界が少し身近に感じてきます。

参考:『鏡野町史』『上齋原村史』『奥津町史』『作陽誌』



院庄館跡 (津山市院庄)



梶原屋敷付近 (山裾のあたり・真庭市草加部)



勧修寺 (京都市山科区)

長沼宗政が、寛喜二年(一一三〇)に嫡子に自分の領地を譲与した書状が残されています。その書状から、下野、陸奥、美濃、美作、備後、武蔵、淡路の各国の地頭も務めていたことがわかりますが、そのうち美作国は「西大野保内円宗寺」とい

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話(0868)54-7733